

◆ 第10回 乾乳前後の飼養管理

～乾乳時の濃厚飼料休止は厳禁、乾乳方法は一発乾乳で～

乾乳方法が間違っている農家はかなり多く、それが最大の生産性阻害要因になっています。



〈1〉乾乳時の濃厚飼料制限＝乾乳時に濃厚飼料給与を一時的に休止することは、絶対にしてはならないことです。

濃厚飼料をやめてしまうと今まで活躍していたルーメン微生物が一気にいなくなり、ルーメン発酵が著しく低下します。

そうするとエネルギー不足に陥り、濃厚飼料を再開しても微生物はすぐに増えてこないで、エネルギー充足は乾乳期間中、うまくいきません。

その結果、肝臓に負担がかかり、さらに大きな負担が肝臓にかかってくる泌乳初期に肝臓の余力がなくなり、病気が出たり、乳量が伸びなかったり、繁殖が悪くなったりします。

またルーメン微生物叢（そう）も不安定なまま分娩（ぶんべん）を迎えることになり、濃厚飼料の増給にはとても耐えられる状況ではありません。血液や胃汁をみると、この乾乳期から泌乳初期における牛の状態の農家差は歴然としています。単純に泌乳期から乾乳期の濃厚飼料量に切り替えるだけがベストです。



〈2〉乾乳方法＝乾乳方法は急速乾乳法（一発乾乳）が正しい方法です。

パルセーターの音がするのに搾ってもらえないことは、牛にとっては拷問です。乾乳する牛はパルセーターの音が聞こえないところに移す必要があります。

一発乾乳では乳房炎対策も重要です。乾乳時期が近づいたらPLテスターで検査をして、陽性の場合には診療所に菌の検査を依頼しましょう。

乾乳軟膏（なんこう）にもいろいろな種類があるので、菌に合わない軟膏では使わないことと同じです。適切な乾乳軟膏を注入しておけば、乾乳直後に乳房が大きく張ってきても安心して見ていられます。



〈3〉乾乳牛の居場所＝搾乳牛舎から離すことは当然ですが、育成牛と一緒にパドックで放し飼い、というのは最悪です。乾乳牛は育成牛に負けてしまいます。乾乳牛だけの場所の確保は必須です。

ぬかるんだパドックは想像以上のエネルギーロスがありますから、それも避けるべきです。